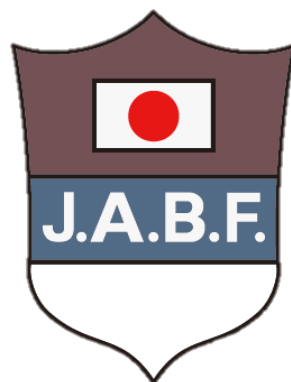


2021全日本ボクシング選手権大会開催に向けた新型コロナウイルス感染症拡大防止等に関する基本方針

安全対策／実施計画

2021年10月01日版



一般社団法人 日本ボクシング連盟

目次

1. 全般的な事項
2. 会場準備・運営に関する対策
3. 参加受付時、健診・計量時の対応
4. 競技会参加者への対応
5. 選手がウォームアップを行う際の留意点
6. 試合を行う際の留意点
7. 参加前後の留意事項・感染者の対応について
8. その他

1. 全般的な事項

- 開催地域及び大会関係者における感染者激増の場合の中止判断
- 大会参加者は全員、大会前2週間～競技期間中の健康チェックシート※1を作成
- 毎日の健康申告書（団体単位）※2
- 大会来場初日に参加承諾書（参加者全員）を提出※3
- オンライン（日本連盟HP・LINEオープンチャット）を使用した情報共有の整備（会議情報・変更情報・山型対戦表・結果等）
- 参加者は各自でマスクやタオルを十分に準備
- 行動記録書の作成（感染が確認された場合に提出）※7

2. 会場準備・運営に関する対策

- 大会会場内に医師を配置
- マスク着用・ソーシャルディスタンス指示イラストの掲示
- 会場内への消毒ポンプ（出入口）・手洗場に液体石鹸の設置
- 会場内における一方通行の導入
- 一般用のゴミ箱の設置は行わずに各自で持ち帰りを原則とする。競技運営上のゴミを指定場所にきつく結んで廃棄

- 場内に対戦表・山型等人が密集する可能性のある掲示物は掲示しない（対戦表・山型等は日連HP・LINE オープンチャットを通じて配信）
- 観覧席・会議席・待機席は約2メートル間隔（最低1m）で椅子を配置
- 空調の利用や窓の開放により換気を行う。また、大型扇風機等を活用して会場内の換気効率を高める。
- 開会式・閉会式・インテグリティ研修・監督会議など、必要最小限での人数で、密を避けたレイアウト設定のもと行う

3. 当日参加受付時、健診・計量時の対応

- 健診・計量セッション制導入（時刻表の事前通知）
- 各種提出用紙の提出・検温受付後の目印を作成（簡易リストバンド※5、IDカードにシール）
- 健診・計量のディスタンスの確保（検温・血圧脈拍測定等の長机で測定者同士との間隔をあける・
ドクター診察時ドクターと書記の間にアクリルスタンド または透明ビニールカーテンの設置）
- ドクター診察時、ドクターはマスク、ビニール手袋を着用する。
- 非接触型の体温計の使用・口腔内の診察省略

4. 競技会参加者への対応

- 選手、引率、役員、競技会場を訪れる関係者に、十分なマスクやタオルの準備を指示
- 入場者の受付での全員検温（サーモカメラ、非接触型体温計）、手指消毒の徹底

- 出場選手は参加承諾書※3 を各団体の代表者に提出し、代表者は参加初日に全員分の参加承諾書を運営本部に提出する。
- 大会参加期間中は、各団体の代表者は健康申告書※2 を毎日受付で提出すること。
- 各団体の代表者は全員分の大会前2週間～競技期間中の健康チェックシート※1 を競技終了後最低1ヶ月は保管すること。
- 競技中に大きな声での会話、応援等の自粛、拍手等での応援の推奨

5. 選手がウォームアップを行う際の留意点

- ウォームアップ場の入場制限（入場受付・引率人数の制限）
- ウォームアップ場内ではソーシャルディスタンスを意識したウォームアップを心がける（対人練習の禁止）

6. 試合を行う際の留意点

- アップ会場入退場、競技間セッション制導入（進行状況をオンラインで通知）
- 競技中の競技者以外は全員マスクを着用
- 計時・ゴング・アナウンス席等の長机で、担当者間にアクリルスタンドを設置する。
- リング各コーナー下にうがい用水は置かない。グロービング室で支給された水を使用し、他選手との共有はしないようにする。
- 水を飲むことは可能だが、感染対策上、うがい廃液処理が困難なため、うがいを禁止とする。

※口腔内の出血や歯牙の損傷が疑われる場合・マウスピースが床に落ちた場合等、特別な事情の場合は開催地が準備したバケツを貸し出す。

セカンドは責任をもって指定場所で廃水・洗浄・消毒を行い返却するようにする。

- 競技インターバル中にセカンドがタオルで送風することの禁止
- 競技終了後、対戦選手とセカンドの握手は自粛し距離を確保した挨拶をする。
- グローブ・ヘッドガードなど選手が共有する用具は一試合ごとに消毒
- 各グローブ・ヘッドガードをどの選手が使用したか、使用記録を残す。
- セカンドは競技中、ビニール手袋を着用する。手袋の使用は一試合ごととし、ビニール袋に入れて密閉して廃棄する。
- 試合またはセッションごとにコーナーポスト ロープなど消毒
- アナウンスマイク・ストップウォッチ・ゴング機材 担当者交代ごとの消毒

7. 参加前後の留意事項・感染者の対応について

1) 提出書類の保管について

- ①新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した場合に備え、実行委員会は大会参加者が提出した書類を1ヶ月間保管しておく。
- ②大会参加者が大会終了後14日間以内に新型コロナウイルス感染症に感染した場合、実行委員会は保管している参加承諾書※3及び健康申告書※2の情報提供を関係機関に対して行う。

2) 大会参加について

①出場チーム等の参加判断基準

- ・チームとは、出場登録選手、監督、コーチおよび引率者だけでなく、活動や移動行程等を同一とする出場登録選手以外の練習を共にする者およびチーム関係者（トレーナー、運転手等）も含む。
- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前2週間以内の期間に、チーム内で感染者が発生した場合には当該選手は出場できない。
- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前3日以内の期間に、チーム内で濃厚接触者が発生した場合には該当選手は出場できない。

- ・大会参加日の4日前から2週間以内の期間に、チーム内で濃厚接触者が発生した場合には、チーム全員（濃厚接触者本人を除く）の体調不良が解消された後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過し、かつチーム全員がPCR等検査で陰性判定された場合のみ、当該選手は出場可能とする。
- ・大会参加日の4日前から2週間以内の期間に、チーム内で感染疑い者が発生した場合には、チーム全員の体調不良が解消された後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過し、かつチーム全員が医師により感染者である可能性が低いと診断された場合（PCR等検査による陰性判定でも可）のみ、当該チームは出場可能とする。
ただし、緊急事態宣言地域（各県独自の緊急事態宣言等の発令も含む）からの出場チームについては、チーム内で感染疑い者が発生した場合には、チーム全員の体調不良が解消された後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過し、かつチーム全員がPCR等検査で陰性判定された場合のみ、当該選手は出場可能とする。
- ・大会参加日から15日前以前の期間において、チーム内で感染者、濃厚接触者または感染疑い者が発生した場合には、チーム全員の体調不良が解消された後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過している場合に、当該選手は出場可能とする。
- ・濃厚接触者（要観察者）については、健康チェックシートのチェック項目に該当しなければ特に制限しない。
- ・緊急事態宣言地域からの参加の可否については、当該地域の都道府県担当部局または出場選手所属校校長の判断に従うものとするが、会場地自治体に移動する者は原則として出場登録選手、監督、コーチおよび引率者のみとする。
- ・チーム内に1名以上の新型コロナウイルス感染症対策責任者（監督やコーチ等でも可）を置き、参加申込の際に開催地実行委員会に報告する。新型コロナウイルス感染症対策責任者は、全国高体連や開催地実行委員会、競技専門部、保健所、保護者等との連絡調整を担うとともに、チーム内での感染者対応や感染防止対策徹底の役割を担うこと。

②大会関係者の参加可否判断基準

- ・大会参加者とは、役員、補助員、報道機関、招待者、視察者、競技団体関係者、スポンサー、開催自治体関係者、出店者、観客等、来場する全ての者をいう。
- ・大会期間中の感染者、濃厚接触者、感染疑い者は参加をできない。
- ・大会参加日および大会参加日から参加2週間前までの期間の感染者または濃厚接触者は参加をできない。
- ・大会参加日および大会参加日から大会参加前3日以内の期間における感染疑い者は参加を辞退する。
- ・大会参加の4日前から大会参加2週間前以内の期間における感染疑い者は、体調不調解消後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過し、かつ医師により感染者である可能性が低いことを診断された場合（PCR等検査による陰性判定でも可）のみ参加可能とする。
ただし、感染疑い者のうち緊急事態措置区域（各県独自の緊急事態宣言等の発令も含む）から参加する者は、体調不調が解消された後、薬剤を服用しない状態で3日以上経過し、かつPCR等検査で陰性が判定された場合のみ参加可能とする。
- ・大会参加日から15日前以前の期間における感染者、濃厚接触者または感染疑い者は、体調不調解消後、薬剤を服用しない状態で3日以

上経過している場合に参加可能とする。

- ・接触者（要観察者）については、健康チェックシートのチェック項目に該当しなければ特に制限しない。

③感染者、濃厚接触者、感染疑い者、接触者(要観察者)の基準

ア. 感染者

- ・PCR検査（LAMP法、TMA法も含む。※以下同じ）、抗原定量検査または抗原定性検査で陽性と判定された者

イ. 濃厚接触者

- ・所轄保健所の判断による。

ウ. 感染疑い者

- ・発熱（37.5℃以上）や風邪症状（咳、のどの痛み）、だるさや息苦しさ、味覚や嗅覚の異常など健康チェックシートのチェック項目該当者または会場内の医師・看護師により体調不良を認められた者を感染疑い者とする。

ただし、健康チェックシートのチェック項目該当者であっても、次の①②に該当する者は除く。

①医師や保健所等により感染者である可能性が低いと診断された場合

②全チェック項目のうち「同居家族や身近な知人で感染が疑われる方」のみの該当者であり、かつ感染が疑われる同居家族や身近な知人が以下のa～cの場合

a PCR検査又は抗原定量検査（以下「PCR等検査」という。）により陰性と判定された場合

b 医師や保健所等により感染者である可能性が低いと診断された場合

c 症状発症（発症日は含めない）の2日前から10日後までの期間に感染が疑われる同居家族や身近な知人と接触していない場合

- ・感染疑い者の発生日とは、健康チェックシートのチェック項目に該当があった日または医師（看護師）により体調不良を認められた日とする。（複数日の場合は大会に最も近い日）

3) 感染症発症者、濃厚接触者または感染疑い者となった場合の対応

- ・全ての大会参加者（出場チームおよび大会関係者を言う、以下同じ）は、大会期間中および大会参加前2週間以内から大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、開催地実行委員会に対して速やかに報告し、指示に従うこと。
- ・全ての大会参加者は、医療機関や隔離施設、宿泊施設、自宅までの移動や輸送は各自の責任で行うこと。特に感染者や濃厚接触者となった場合には公共交通機関やタクシーは利用できないため、移動手段を事前に想定しておくこと。

ア. 出場チーム

チームが出場辞退となった場合や一部選手の検査、療養または帰宅が必要となった場合等の手段について、学校関係者、所属する都道府県高体連、保護者等と事前に検討しておくこと。

イ. 大会関係者

参加辞退となった場合や大会途中で検査、療養または帰宅が必要となった場合等の移動手段について、各競技専門部、所属団体、保護者、その他関係者と事前に検討しておくこと。

- ・新型コロナウイルス感染症対策責任者は、参加する前に保護者やチーム関係者に対し、感染者等が発生した場合には、開催県における付添いや開催県までの迎えが必要となる場合があることを周知徹底しておくこと。

4) 大会中止や出場禁止措置等に伴う経費負担

- ・本基準に基づき大会中止または出場禁止となることに伴い、出場者やその他関係者が支払うPCR検査料、治療費、宿舍キャンセル料、交通費などの経費については、原則として出場者が負担するものとし、開催地実行委員会とは負担しない。

8. その他

開催地住民に対し遠方来県者の影響によるコロナ感染、コロナ感染に係る不安な思いをさせる行為は避けなければならない。

そのため、来県者として明確にわかるようなあからさまな行為は住民の不安につながる行為になるため自粛する必要がある、これらを踏まえ以下を推奨する。

- ・関係者は県名や所属団体名等の入った服装での外出を控えることの推奨
- ・外食する際、来県者とわかるような発言や飛沫感染を拡大させるような大きな言動を控えることの推奨

参考資料（1. 2. はインターネット検索で閲覧可能）

1. 日本スポーツ協会 スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
2. 令和3年度全国高等学校総合体育大会実施時における新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針
3. 一般社団法人 日本ボクシング連盟 感染症と共存する新しい生活様式におけるボクシング競技の活動再開に関するガイドライン
4. 岩手県・群馬県・岡山県 高体連ボクシング専門部 競技会再開に関するガイドライン